

## 「多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)」養成プラン」における工程表

申請担当大学名	東京医科歯科大学
連携大学名	秋田大学、慶應義塾大学、国際医療福祉大学、聖マリアンナ医科大学、東京医科大学、東京薬科大学、弘前大学
事業名	未来がん医療プロフェッショナル養成プラン

### ① 本事業終了後の達成目標

本事業終了後の達成目標	
達成目標	がん対策基本法が改定され、新たなニーズとしてゲノム、小児がん、希少がん、多様なライフステージへの対応が提示された。本事業では、コースワークに加えて、実践の場所を大学間で補完し実効性を伴う教育体制を整備するとともに、社会実装、患者団体・行政との連携の構築を行い、これらの新ニーズに対応する人材を育成することを目標とする。首都圏と北東北の大学が連携することにより、それぞれの得意分野における連携を強化した上で、各大学の特色に応じたがん専門医療職育成の教育コースを立ち上げ、新たなニーズに応じた人材(医師、歯科医師、看護師、薬剤師、遺伝カウンセラーなど)を育成する。

### ② 年度別のインプット・プロセス、アウトプット、アウトカム

		H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度
インプット・プロセス (投入、活動、行動)	定量的なもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8大学運営協議会の設置・開催(1回)</li> <li>・養成分野別コース新規受入れ人数(インテンシブ以外)</li> <li>  *ライフステージ:2名(その他2)</li> <li>・養成分野別コース新規受入れ人数(インテンシブ)</li> <li>  *ゲノム:7名(うち医師3,看護師2,薬剤師1,その他1)</li> <li>  *ライフステージ:52名(うち医師5,看護師2,薬剤師35,その他10)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8大学運営協議会の開催(1回)</li> <li>・養成分野別コース新規受入れ人数(インテンシブ以外)</li> <li>  *ゲノム:19名(うち医師12,歯科医師1,看護師2,薬剤師4)</li> <li>  *希少がん・小児がん:9名(うち医師8,歯科医師1)</li> <li>  *ライフステージ:15名(うち医師5,看護師2,薬剤師2,その他6)</li> <li>・養成分野別コース新規受入れ人数(インテンシブ)</li> <li>  *ゲノム:22名(うち医師7,看護師4,薬剤師2,遺伝カウンセラー1,その他8)</li> <li>  *希少がん・小児がん:6名(うち医師3,その他3)</li> <li>  *ライフステージ:73名(うち医師9,看護師4,薬剤師40,その他20)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8大学運営協議会の開催(1回)</li> <li>・養成分野別コース新規受入れ人数(インテンシブ以外)</li> <li>  *ゲノム:19名(うち医師12,歯科医師1,看護師2,薬剤師4)</li> <li>  *希少がん・小児がん:9名(うち医師8,歯科医師1)</li> <li>  *ライフステージ:16名(うち医師5,看護師2,薬剤師2,その他7)</li> <li>・養成分野別コース新規受入れ人数(インテンシブ)</li> <li>  *ゲノム:22名(うち医師7,看護師4,薬剤師2,遺伝カウンセラー1,その他8)</li> <li>  *希少がん・小児がん:6名(うち医師3,その他3)</li> <li>  *ライフステージ:76名(うち医師9,歯科医師1,看護師5,薬剤師41,その他20)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8大学運営協議会の開催(1回)</li> <li>・養成分野別コース新規受入れ人数(インテンシブ以外)</li> <li>  *ゲノム:19名(うち医師12,歯科医師1,看護師2,薬剤師4)</li> <li>  *希少がん・小児がん:9名(うち医師8,歯科医師1)</li> <li>  *ライフステージ:15名(うち医師5,看護師2,薬剤師2,その他6)</li> <li>・養成分野別コース新規受入れ人数(インテンシブ)</li> <li>  *ゲノム:22名(うち医師7,看護師4,薬剤師2,遺伝カウンセラー1,その他8)</li> <li>  *希少がん・小児がん:6名(うち医師3,その他3)</li> <li>  *ライフステージ:76名(うち医師9,歯科医師1,看護師5,薬剤師41,その他20)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8大学運営協議会の開催(1回)</li> <li>・養成分野別コース新規受入れ人数(インテンシブ以外)</li> <li>  *ゲノム:19名(うち医師12,歯科医師1,看護師2,薬剤師4)</li> <li>  *希少がん・小児がん:9名(うち医師8,歯科医師1)</li> <li>  *ライフステージ:16名(うち医師5,看護師2,薬剤師2,その他7)</li> <li>・養成分野別コース新規受入れ人数(インテンシブ)</li> <li>  *ゲノム:22名(うち医師7,看護師4,薬剤師2,遺伝カウンセラー1,その他8)</li> <li>  *希少がん・小児がん:6名(うち医師3,その他3)</li> <li>  *ライフステージ:76名(うち医師9,歯科医師1,看護師5,薬剤師41,その他20)</li> </ul>
	定性的なもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学内運営組織の構築</li> <li>・教育体制の整備</li> <li>・本事業施行に必要な人材の確保</li> <li>・各大学における設置コースの開設準備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各大学における設置コースの開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各大学における設置コースの継続</li> <li>・中間外部評価の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各大学における設置コースの継続</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各大学における設置コースの継続</li> <li>・最終外部評価の実施</li> </ul>

アウトプット (結果、 出力)	定量的なもの	<p>セミナー・シンポジウムの開催:15回、878名</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・養成分野別コース修了者数(インテンシブ) <ul style="list-style-type: none"> <li>*ゲノム:7名(うち医師3,看護師2,薬剤師1,その他1)</li> <li>*ライフステージ:52名(うち医師5,看護師2,薬剤師35,その他10)</li> </ul> </li> </ul>	<p>セミナー・シンポジウムの開催:20回、1158名</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受講生の成績評価</li> <li>・受講生に対するアンケート調査の実施</li> <li>・養成分野別コース修了者数(インテンシブ以外) <ul style="list-style-type: none"> <li>*ライフステージ:2名(その他2)</li> </ul> </li> <li>・養成分野別コース修了者数(インテンシブ) <ul style="list-style-type: none"> <li>*ゲノム:17名(うち医師7,看護師4,薬剤師2,遺伝カウンセラー1,その他3)</li> <li>*希少がん・小児がん:2名(うち医師1,その他1)</li> <li>*ライフステージ:66名(うち医師9,看護師4,薬剤師36,その他17)</li> </ul> </li> </ul>	<p>セミナー・シンポジウムの開催:20回、1158名</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受講生の成績評価</li> <li>・受講生に対するアンケート調査の実施</li> <li>・各大学の受講生間の交流(研究発表など)</li> <li>・養成分野別コース修了者数(インテンシブ以外) <ul style="list-style-type: none"> <li>*ゲノム:3名(うち看護師2,薬剤師1)</li> <li>*ライフステージ:6名(うちその他6)</li> </ul> </li> <li>・養成分野別コース修了者数(インテンシブ) <ul style="list-style-type: none"> <li>*ゲノム:17名(うち医師7,看護師4,薬剤師2,遺伝カウンセラー1,その他3)</li> <li>*希少がん・小児がん:4名(うち医師3,その他1)</li> <li>*ライフステージ:69名(うち医師9,歯科医師1,看護師5,薬剤師37その他17)</li> </ul> </li> </ul>	<p>セミナー・シンポジウムの開催:20回、1158名</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受講生の成績評価</li> <li>・受講生に対するアンケート調査の実施</li> <li>・各大学の受講生間の交流(研究発表など)</li> <li>・養成分野別コース修了者数(インテンシブ以外) <ul style="list-style-type: none"> <li>*ゲノム:3名(うち看護師2,薬剤師1)</li> <li>*ライフステージ:8名(うち看護師1,その他7)</li> </ul> </li> <li>・養成分野別コース修了者数(インテンシブ) <ul style="list-style-type: none"> <li>*ゲノム:17名(うち医師7,看護師4,薬剤師2,遺伝カウンセラー1,その他3)</li> <li>*希少がん・小児がん:4名(うち医師3,その他1)</li> <li>*ライフステージ:69名(うち医師9,歯科医師1,看護師5,薬剤師37その他17)</li> </ul> </li> </ul>	<p>セミナー・シンポジウムの開催:18回、1078名</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受講生の成績評価</li> <li>・受講生に対するアンケート調査の実施</li> <li>・修了生の進路調査(取得資格なども含め)</li> <li>・各大学の受講生間の交流(研究発表など)</li> <li>・養成分野別コース修了者数(インテンシブ以外) <ul style="list-style-type: none"> <li>*ゲノム:19名(うち医師12,歯科医師1,看護師2,薬剤師4)</li> <li>*希少がん・小児がん:9名(うち医師8,歯科医師1)</li> <li>*ライフステージ:15名(うち医師5,看護師2,薬剤師2,その他6)</li> </ul> </li> <li>・養成分野別コース修了者数(インテンシブ) <ul style="list-style-type: none"> <li>*ゲノム:22名(うち医師7,看護師4,薬剤師2,遺伝カウンセラー1,その他8)</li> <li>*希少がん・小児がん:6名(うち医師3,その他3)</li> <li>*ライフステージ:76名(うち医師9,歯科医師1,看護師5,薬剤師41その他20)</li> </ul> </li> </ul>
	定性的なもの	<p>・8大学間における連携体制の構築(ゲノムがんセンターボード、小児がん・希少がんがんセンターボードなど)</p>	<p>・8大学間における連携体制の構築(ゲノムがんセンターボード、小児がん・希少がんがんセンターボードなど)</p>	<p>・8大学間における連携体制の構築(ゲノムがんセンターボード、小児がん・希少がんがんセンターボードなど)</p>	<p>・8大学間における連携体制の構築(ゲノムがんセンターボード、小児がん・希少がんがんセンターボードなど)</p>	<p>・8大学間における連携体制の構築(ゲノムがんセンターボード、小児がん・希少がんがんセンターボードなど)</p>
アウトカム (成果、 効果)	定量的なもの	<p>・ホームページによる情報発信:5回</p> <p>・受講者への告知:100名</p>	<p>・ホームページによる情報発信:10回</p> <p>・がんゲノム医療および緩和ケアに関わる増員:医師2名</p> <p>・「がんゲノム」「プレジジョン・メディスン」の教授:100名</p>	<p>・ホームページによる情報発信:10回</p> <p>・がんゲノムおよび緩和ケアの担当医師養成(On the job training):2名</p> <p>・「がんゲノム」「プレジジョン・メディスン」の教授:100名</p>	<p>・ホームページによる情報発信:10回</p> <p>・がんゲノムおよび緩和ケアの担当医師養成(On the job training):2名</p> <p>・「がんゲノム」「プレジジョン・メディスン」の教授:100名</p>	<p>・ホームページによる情報発信:10回</p> <p>・「がんゲノム」「プレジジョン・メディスン」の教授:100名</p> <p>・がんゲノム医療部門の整備(年間100-200名の患者受け入れ)</p> <p>・緩和ケア病棟入院患者数の安定(年間180名程度)</p> <p>・緩和薬物療法認定薬剤師、がん専門薬剤師養成:5名</p>
	定性的なもの	<p>・教育システムのネットワーク(遠隔講義体制の構築)</p> <p>・情報公開により各大学間および地域社会に共有できる</p>	<p>・がんゲノム診療の実践</p> <p>・希少がん、小児がん診療体制の強化</p> <p>・緩和ケア診療体制の整備(外来、チーム、病棟)</p> <p>・学生、教員による本事業に対する情報共有が進み、学内、連携大学間および地域(行政、患者団体など)との連携が深化する</p>	<p>・がんゲノム診療の実践</p> <p>・希少がん、小児がん診療体制の強化</p> <p>・緩和ケア診療体制の整備(外来、チーム、病棟)</p> <p>・実践と連携を継続することによって、学内および連携大学間での横断的な教育・診療体制が整備される</p>	<p>・がんゲノム診療の実践</p> <p>・希少がん、小児がん診療体制の強化</p> <p>・緩和ケア診療体制の整備(外来、チーム、病棟)</p> <p>・診療面における外部評価</p> <p>・事業の継続によって、これまでの横断的な連携から、学年間の縦断的な連携体制が構築できる</p>	<p>・がんゲノム診療の実践</p> <p>・希少がん、小児がん診療体制の強化</p> <p>・緩和ケア診療体制の整備(外来、チーム、病棟)</p> <p>・専門資格の取得</p> <p>・大学院教育と臨床実装を融合させた横断的+縦断的教育システムが構築できる</p>

③ 推進委員会所見に対する対応方針

要望事項	内容	対応方針
①	本事業は各大学の連携の下で実施するものであることを踏まえ、一部の大学が主体となって実施するのではなく、事業責任者のリーダーシップの下、事業における各大学の役割や責任体制を明確化し、連携大学すべてが一体となって事業を推進すること。また、事業期間終了後も各大学において、長期的な展望に基づく具体的な事業継続の方針・考え方について検討し、自立化した事業体制を構築すること。	平成29年度に開催する第1回運営協議会において、事業責任者のリーダーシップの下、各大学の役割や責任体制を明確化する。その後も、定期的に8大学間の運営協議会を開催、必要に応じて遠隔会議システム活用し、各大学の進捗状況、役割分担を共有し調整する。各大学においても、明確化された役割や地域の特性に応じ、個別の事業並びに連携校との協同事業の推進を図るとともに、事業期間終了後についても、大学院カリキュラムへの組み込みや公開講座への展開、地域がん診療拠点病院での事業継続など、各大学の実情に応じた事業継続の方針・方法について検討する。
②	厳格な事業の進捗管理の下、自己点検・評価や患者等を含む外部評価を実施し、事業の不断の見直しを行い、がん医療の新たなニーズに対応できる優れた人材を養成する体系的な教育プログラムを展開すること。その際、履修する学生や医療従事者等のキャリアパス形成に資するものとする。また、客観的なアウトプットやアウトカムを年度ごとに明確にすること。	評価については各大学での目標を定め、それに対して、自己評価、8大学運営協議会での評価、外部評価の3層からなる評価システムを構築し、事業の進捗について明確化する。自己評価にあたっては、各大学・コースの実情に応じ、学内複数教員でのチェック、行政や患者会など学外者も含めた委員会での評価などを行う。この評価システムによる評価結果を受けて、プログラムの見直し、実施、再度の評価を繰り返す(PDCAサイクル)、がん医療の新たなニーズに対応できる人材を養成する教育プログラムの展開を推進する。キャリアパスの形成という点では、各コースの特性に応じ、腫瘍内科医(がん薬物療法専門医)、がん看護専門看護師、緩和ケア認定看護師、認定薬剤師等の資格取得に役立てる内容とする。客観的なアウトプット等という点では、各コースの修了者数等を年度ごとに明示する。
③	成果や効果は可能な限り可視化した上で、地域や社会に対して分かりやすく情報発信すること。また、他大学の参考となるよう、特色ある先進的な取組やモデルとなる取組について、実現するためのノウハウ、留意点等も含めて積極的に情報発信するなど、成果等の普及・展開に努めること。	各大学におけるホームページ開設、8大学連携シンポジウム、市民公開講座等において、本事業の成果を公表し、随時、患者団体や行政、薬剤師会や看護協会等との意見交換も行う。また大学の特性に応じ、印刷物も併用し、医療機関や保健所等に配布する。併せて、専門的な成果等は、論文発表や学会発表により、他大学等への普及・展開に努める

④ 推進委員会からの主なコメントに対する対応方針

推進委員会からの主なコメント(充実を要する点)	対応方針
8大学連携と数が多く、そのうち一部の大学で役割分担が明確になっていない。	10月までに開催予定の平成29年度第1回運営協議会において、役割分担を明確化する。
地域の医療機関や行政、一般市民とのネットワークの構築について具体的に検討する必要がある。	東京医科歯科大学においては、東京都と東京都緩和医療研究会での連携を行う。秋田大学においては、秋田大学がんプロ運営諮問委員会を設けて、がん拠点病院や県保健局、市民代表とのネットワークを構築する。弘前大学においては、関連医療機関等との共催事業として一般市民向けの公開講座を開催し、がんプロの取り組みが社会全体での取組みとなるように図る。慶應義塾大学においては、がん患者団体と連携し、がん患者・家族へのピアサポートを行い、併せて、がん地域連携拠点病院として、がん予防のための市民公開講座を開講する。国際医療福祉大学においては、大田原市、港区、成田市といったキャンパス所在地の行政に加え、一般市民とのネットワーク構築を検討する。東京薬科大学においては、緩和ケアに関し、県業務課、地域保健所、薬剤師会等と連携して多種職が参加できるプログラムを提供し、その成果について一般市民向けフォーラムを開催し、啓蒙啓発を通じたネットワーク構築を目指す。
補助期間終了後も本事業を確実に継続するための計画を具体的に検討する必要がある。	各大学の本事業を担当する教員については多くがすでに内製化しており、補助期間終了後も大学院のコースが各大学の正式な大学院のプログラムとして存続するよう設計されている。また、評価の高いインテンシブコースは、経常費や補助金での継続や公開講座へ移行し、事業運営母体は大学や病院の部署としての構築、地方と首都圏との連携、行政やがん拠点病院への働きかけなど、各大学の実情により、本事業を継続するための各種の計画が検討されている。
事業の実施担当者が100人を超えており、各大学の連携をスムーズに行うための方策を検討する必要がある。	実施担当者については、8大学の運営協議会担当者を絞り込むことによって、スムーズかつ効率的な運営体制を構築する。また、各大学にそれぞれ運営委員会を設け、学内担当者間の連携を図る体制を整え、併せて、遠隔会議システムやメーリングリストを活用し、実施担当者全員の情報共有を図る。